

伝統の神楽舞を披露

◎国指定重要無形民俗文化財「伊予神楽」

4月5日、大本神社（内深田）で清明祭があり、地元関係者らが出席しました。

当日は、南予地区の神主で組織される伊予神楽かなぎ会（三瀬邦雄会長、会員21人）の会員が、国指定重要無形民俗文化財の伊予神楽を奉納しました。

この神楽は、鎌倉時代以前から継承されている大変歴史のあるもので、古くは「男神子四国神楽（おかん



こしこくかぐら」と呼ばれ、四国神楽のおおもととなるものです。

明治中期に、神社祭典は全国的に統一され、神楽の内容は式典・神事を除いた民衆から喜ばれる舞技中心の里神楽へと移行しました。伊予神楽は、古来の神楽の形式をそのまま継承しています。また、男性の神主のみで組織される神楽集団は全国的にも珍しく、その点においても貴重といえます。

伊予神楽は、一場から三十五場までで構成されており、大本神社神主の大野直續さんによれば、昭和60年代までは一晩かけて三十五場すべてを奉納していたそうです。

この日は、「喜余女手草（きよめたぐさ）之舞之事」など計三場が出席者の前で披露されました。

春の訪れをつげる座敷雛

◎きほくの里ひなまつり

3月28日から4月6日にかけて、高田商店（近永）できほくの里ひなまつりが開催されました。

このお祭りは、鬼北町文化協会座敷雛研究会（上本与忠会長、会員8人）が主催するもので、平成6年から始まり、今年で15回目を迎えます。



写真／柳野治示氏



写真／柳野治示氏

歌と踊りで観客を魅了

◎成川溪谷桜まつり2008

4月5日、成川溪谷休養センター前の特設会場で成川溪谷桜まつり2008が開催されました。

この催しは、地域の活性化を目的に結成された西部芸能クラブ（武田民夫代表）が主催したものです。ステージ上では、同クラブの会員らが、歌や踊り、

路の春」。18畳の座敷に、雛壇と雛人形を中心に据え置き、そのまわりに山野草や柵田、民家などを飾りつけ、山里の風景を再現しました。

会場は、豪華絢爛の座敷雛を目当てに、連日町内外から訪れた来場者で賑わいました。

三味線、大正琴など多彩な演芸を披露。また、道の駅三角ぼうしの加工品販売やもちまきなどのイベントも同時に行われ、多くの来場者で賑わいました。

例年より桜の開花が遅れたために桜は2分咲き程度でしたが、観客は溪谷の春を満喫したようです。